

## 5月6日「ボランティア実践」

### 講義「ボランティアの本質とは」



●私は今回、ボランティアの本質を学び、ボランティア活動をするということについて深く考えることができました。はじめに、学生のためのボランティア論で池の事故について読み、自分にできることを考えました。私はボランティアの本質がよく分からず、ワークシートの3番が白紙でした。「何かのお手伝い」「イベントに参加する」と考えましたが、納得がいきませんでした。福田先生から「自分だったら何ができるのかを考えて行動しようとするその思いがもうボランティアで、それがボランティアの本質だ」と教えていただいたことにすごく納得できました。それと同時に、イベントに参加しているとき、私は「自分に何ができるのか」を考えることができているのかと少し不安になりました。

次に、ボランティア拒否宣言を読みました。そこで印象に残ったのは、「ボランティアの犬達は、私を夏休みの宿題にする」という文章です。その話し合いの中で、「推薦書に書くためにボランティア活動に参加した」という人がいました。そして、「最低」という声が聞こえてきました。確かに、夏休みの宿題を終わらせるためだけに、推薦書に書くためだけに、無関心でボランティア活動をするのは少し悲しい気持ちになるけれど、逆に、「夏休みの宿題を終わらせることがキッカケでボランティア活動に出会った」と考えることもできます。ボランティア活動をするキッカケは人それぞれなので、どんな理由でも「またやりたい」と思えたなら、少しでも楽しい気持ちになれたならすごくいい事だと感じます。私がボランティア活動に参加しようと思ったキッカケは、姉がボランティア活動に参加していたからです。私は小さいときから人見知りで、ボランティア活動に参加するなんて自分には無理だと感じていました。しかし姉が参加するイベントに客として行って見て、姉の楽しそうな姿を見て、やってみたいと思いました。実際にやってみると楽しくて、他にも参加したいという気持ちになりました。私は、誰でも興味のある事はやってみれば何でもできると考えているので、これからは「自分だったら何ができるのか」をしっかりと考え、いろいろな活動に参加していきたいです。

●今回の講義から私はボランティア実践で、個々の能力によって役割を決めず、「取り組みたい」ことを実行し且つチームでの協調性を高め活動していきたいと考えている。

ボランティアについて初めて講義を受け、考え方がまた変わった。その中で特に二つ印象に残ったものがある。一つ目は、花田さんによる詩で障がい者とボランティアの在り方が書かれてあり「ボランティアこそ私の敵」という文には驚いた。障がい者を無意識に下に見ている私たちへの対抗文に感じられた。優しさや「～してあげる」精神が今の私たちではないだろうか。障がいを持っていてもできないことはない。できないことを増やすのはあなたたちと言われ納得した。自分のものさしで判断せず様々な考え方があることを理解することが必要であるということがわかった。

二つ目は、先生の講義の中にあつた言葉だ。「この一年では自分で考え計画し、そして実行する。それにはシェアドリーダースhipが必要である。」1年間子ども班のリーダーとして活動してきた。そのためどれほどシェアドリーダースhipが必要であるか痛いほど理解できた。



イベントの際、計画し実行することが何度かあったが大幅に時間がかかった。しかし、それを繰り返すうちに仲間に動いてもらうことのやり方や効率を向上させるにはどうすればいいのかがわかり、自分に自信が付いた。この能力を駆使し、誰もが頼り頼られ、協調性のある新しいチームを築き上げていきたい。全力で、積極的に行動し、多くの人と関わり今後のためにもより自分を成長させてゆきたい。

